

インプロ・ワークショップの実態と展望
ー ファシリテーターへのインタビュー調査をもとに ー

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター
生田 祥子

本研究は、インプロヴィゼーション・ワークショップ（インプロ・ワークショップ）が一般的に広まっている実態と、インプロ・ワークショップを行う上での難しさや困難、それに対する配慮点や工夫点をファシリテーターへの調査で明らかにすることを目的とした。一般の方を対象としたインプロ・ワークショップを行っているファシリテーター3名へインタビュー調査を行い、修正版グランデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）で分析を行った。分析は、インプロ・ワークショップを行う中での参加者の変化と、その変化に伴う参加者への配慮や働きかけのプロセスをテーマに行った。参加者は、＜新たな自分に出会う失敗＞を経験することにより《素の自己表現》ができるようになると考えられた。この《素の自己表現》ができるようになるためには、インプロ・ワークショップが【安心して失敗できる空間】である必要があると推察された。この【安心して失敗できる空間】を作るために、現場では様々な配慮や工夫がされていると考えられる。これらの工夫や配慮により、参加者はより安全にインプロ・ワークショップを受けることができるようになるのではないかと考える。